

星
屑

水無月
一三九号

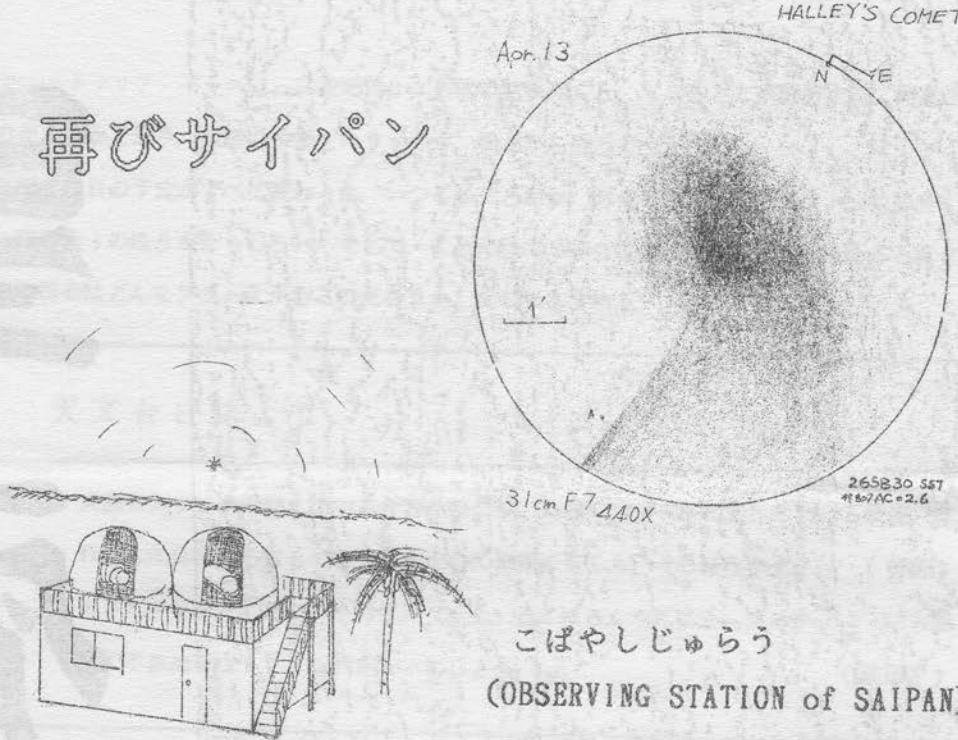


1986年3月9日 白樺湖

4時30分～35分

E-130, EM-1

再びサイパン



★ 2度目のサイパン

海外に限らず旅行というものは、出来るだけ軽装に限る。まして一人旅ならなおさらだ。3月のサイパンへの旅は初めてということもあって、サムソナイトに慎重に器材を入れてゴロゴロ引いて行った。でも、2回目となると、サイパンの気候や暮らし、そしてサイパン天文台の状況も良く判っているので必要最小限の荷物にまとめた。タムロンの300mmニッパチ・レンズを肩にかけ……、そうまるでランチ・ジャーみたいにね。それから機内持込みサイズのバッグに着替えなどを入れただけの姿、本当に海外へ行く姿ではないみたい。ちなみに、出発する朝、天文ガイドのツアーと一緒に、見ていると皆さん大物を抱えていた。

海外旅行は、バカにされるけれど、バック・ツアーやが最も安い。何てって安い。例え現地に行って指定のホテルを利用しなくとも安くつく場合が多い。そしてもし、ツアーハイア・オンリーを扱っているなら、特殊なルートを持たない限りこれを利用するのが最も経済的な旅行となる。

3月のサイパン行きは、ブラボー'86というバックのエア・オンリーを利用した。しかし、この会社、ひどくサービスの悪い所で、危く日本へ帰れなくなるところだった。そこで、4月は別の会社をと思ったが、仲々エア・オンリーという所が無い。何とか考えてやっと航空券を入手した。バックではないので、手続等全て自分でやらねばならないが、そう大したことではない。

ということで、今回は手ぶらに近い軽装でひょい・ひょいとサイパンへ行くことになった。

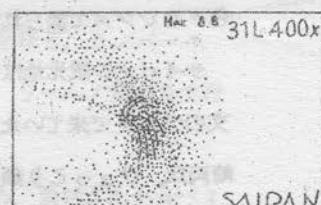
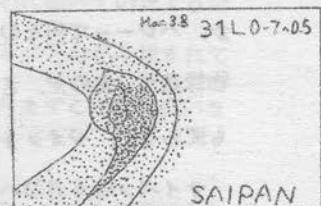
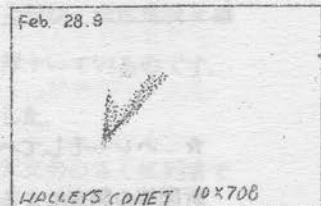
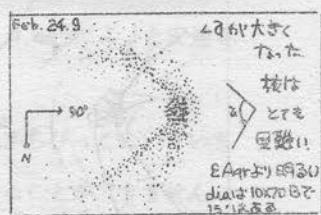
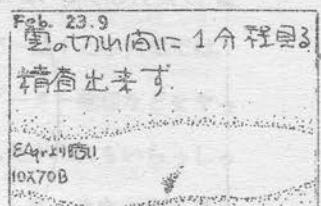
★ サイパンの31cmテレスコープ

サイパン天文台の31cm反赤が、熊本県民天文台の31cmと姉妹機であることは既に触れた。しかし、細部の作りはかなり違う。というのも、サイパン天文台の場合は使用目的に合せ、仕様を出してあったからだ。先ず接眼部、これは天文雑誌でも何處か紹介されていたとおりのもの……。ペンタックス6×7のリングを利用して、シャッター内蔵など誤ったもの。35mmカメラはペンタックスKマウントが基本で、ニコンとキャノンは変換アダプターがあってすぐに使える。これは平林氏が作っていたもので、何故ミノルタが無いのかと言うと、そんなマイナーなカメラは知らんだった。

筆者のアイピースは御存知の方も多いと思うが、ネジ込みのわざらわしさを嫌ってミノルタ・マウントに統一してある。3月の時は一応変換リングを工夫して行つたけれど、うまく行かず結局いつものアイピース・システムは使えなかった。今回はちゃんとアダプターを作ったので無事OK! やはり現物を見ないとこのあたりの工作は難しいものだ。やっと熊本と同じシステムになった。

次に変わっているのは、モーター・ドライブ・コントローラーで県民天文台のものは、恒星時+増減速となっているが、サイパン天文台は外山氏作のプログラマブル・コントローラとなっている。

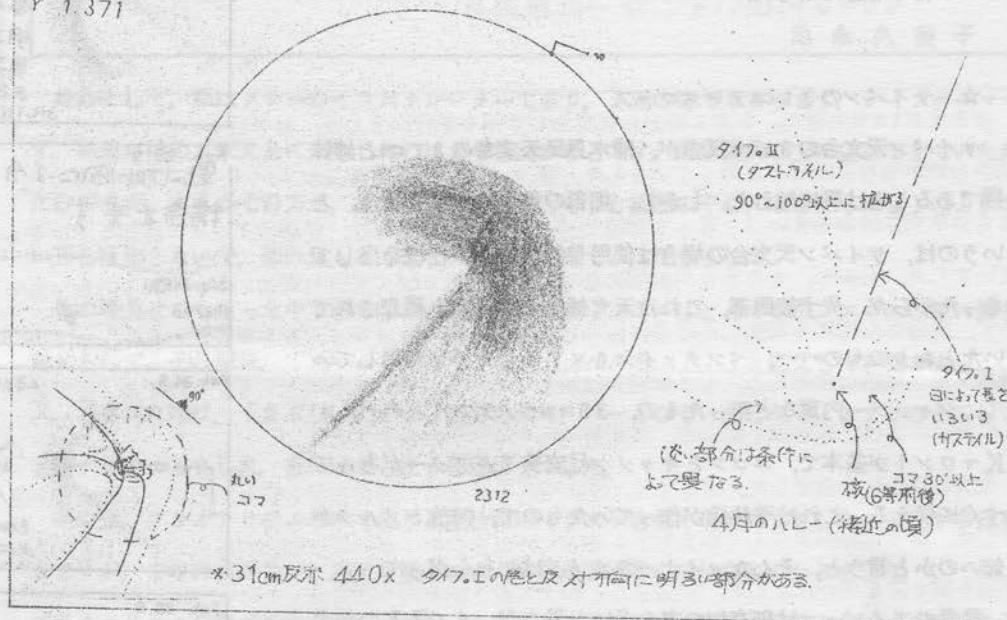
何がどうなっているのかというと、4コの16進数コントローラーが組み込まれていて恒星時の発振数が変化出来るというわけ。これで、ハレーの動きに合せて自動的に追尾してくれるというスグレモノ……。ひどい時は、この31cmICカメラが5~7台も乗りおまけに直焦点として400ニッパチが2台も乗ったりで、まるでカメラのぶらさがるクリスマス・ツリーみたいになる。勿論ノーガイド。これを見た清君、「まじめに考えていたけれど、写真はこれで良いんだねえ……」と感心していた。神頼みガイド……。



サイパンでのハレー

4月13日 13:55 UT $m_i = 2.7$

$\Delta 0.427$
 $r 1.371$



★ ハレーそしてハレー

新聞等の調査によるとハレー彗星を見た人は凡そ3%に過ぎなかったとか。今世紀最大のサギとか。ハレーって何なのだとかいり話も聞いた。けれども、筆者にとって、ハレー彗星は予想外の大物彗星だったのだ。さすが大物とうならせる姿を見せてくれた。これは8月の初見から6月の今でも変わらない。ジオットの映像も素晴らしいものだった。

サイパンの4月のハレー彗星は大きいばかりで面白くないと予想していたが、どうしてどうして色々なレンズで撮られた像を見ているとまさに第一級の彗星であったことが判る。

サイパンの観光地は殆ど日本人で一杯だった。行きや帰りのヒコーキも同様、天文台では月刊天文のツアーで来ていた川崎天文同好会の諸氏、また16cmシュミットを抱いて来た山形の板垣・岡崎両氏、ひょっこり顔出した室生観測所の細川氏ら……。毎晩出稼へ出てハレーパンならぬカレーパンを持って来たキベちゃん……、皆なみんなハレーの力だとしたら、大したものだ。天文ガイドなどの観測地となったカグマン飛行場の異様な光景、広い滑走路に三脚とカメラを持って座り込んだマニヤたちがまるで、キャベツ畠みたいに続いている……音も無く。

76年に一度、一生に一度の星、ハレー彗星。一つ一つ取り上げればとても勉強になった気はするけれど、何かもう一つ忘れていることがあるような……そんな思いを残して行った。（完）

1000円払いそこなった草刈り

富永 昌人

去る6月14日土曜日、夕方4時から天文台の草刈りを行いました。当日はあいにくの天気で、昼頃から雨がちらりほらりと降っていました。我々、熊大天文研究会のメンバーは「この天気では、まさか草刈りはあるまい」と言って部屋でマーケティングをやったり、F観のデーター整理などをやっていました。しかし、1000円が気になって、3:00頃天文台へ電話したがだれもいらっしゃらず、艶島さん宅にも電話したけどいらっしゃらず、そのままやっておりました。また、4:30頃天文台へ電話したところ、もう草刈りは始まっていて「早くこないと1000円だよ」と安達さんにおどかされ、雨が強く降る中、天文台へいそいだのでありました。

天文台は小雨程度でした。さっそく、手に手に軍手をはめ草をかたっぱしからひっこねいていきました。雨で地面がゆるんでぬきやすくなっていたものの、なかなか前進することができません。草刈り機や鎌も使われました。渡辺さん(熊大天研)が草刈り機を使っている時は、命に危険を感じ近よることはできません。渡辺さんは、クラブ内での残虐性番付第一位に輝やいているのです。ちなみに、第二位は吉田さん、第三位は福岡さんで2人とも鎌を持っていました。

草刈り機よりも鎌の方が効果的なようで、吉田さんと福岡さんがようやく天文台のさくに到着できました。刈られた草を集めて積んでいくのが私の仕事でした。みなさん熱心に働いていたようです。学生は草刈りが終わった後のことが楽しみでがんばっていたようです。草がどんどん積まれてゆきます。ふと見るとなんと天文台がめちゃくちゃ広いではありませんか。今までこんなに広いなんて思ってもいませんでした。

さすがに、これだけの量の草を刈ったのでみなさんつかれがみえてきました。とても全部刈ることはできずに7:30過ぎにやめました。そして、おつまみを広げ、ビールを注ぎ、カンパイ。車でこられてる方はアルコール抜きのビール「バービカン」を飲されました。うーん!草刈りで汗を流した後のビールはうまい!おつまみもうまい!

安達さんが、ゴキブリ退治のホウ酸ダンゴをつくっていらっしゃったところ、新村さんが食べようとした。食べないように気をつけましょう。

今日、草刈りにこられた、艶島さん・長谷先生・小林昌さん・安達さん・松下さん・新村さん・渡辺さん・吉田さん・福岡さん・松崎君・高田君・森君、ごくろうさまでした。そして私

私はハレー彗星を見た

池永久美子

始めまして、私はフリーのイラストレーターであり、2児の母でもあります。レインボーママです。私達が初めて天文台に来ましたのは4年前のことです。運営委員の方に連れてきていただきいたのですが、まさかその方が、この天文台で何かというと話題の中心になる主(ぬし)のような恐い方とは知らないで、恐れ気もなく近づいて連れて来ていただきました。

その時見せてもらった中で最も印象の強かったのが「スバル」と月でした。スバルの青い輝きに魅せられて、それ以来、「スバルを見せて下さい、スバルを...」と注文しております。

又、月を見た時は、「まぶしいですよ」と言われて、へーとのぞいたとたん、あまりのまぶしさに目がチカチカしました。あれはまったく想像以上でした。

その後、プラネタリウムの中で使う星座物語のイラストを描く事になりました。SFや宇宙も好きですが、中学時代ギリシャ神話を読みあさっていた私は喜んで仕事にかかりました。

プラネタリウムの中で音楽やナレーションと共に見る我作品は、原画の出来より120%もうまく見えてくれたりします。 熊日の取材の為、10月須宮本先生にハレー彗星を見せていただきましたがその時は、ただポンヤリしていて、「アレがハレーですよ」と言われれば、「アーソうですか、アレがハレーか！なるほど私はハレー彗星を見た！」と單純に感動したものです。

その時、コタツには入って宮本先生や鷲島さん、そして(主)先生から星の話をいろいろお聞してこれはぜひ天文台の会員になって、今度はチャンとした輝くハレー彗星を見ようと決めました。立派な尾っぽのついた輝くハレー彗星はとうとう見る事が出来ませんでしたが、4月にやっと、もう一度ホヤッとしたハレー彗星を見ることが出来ました。その時、ついでに念願かなって土星も見ることが出来て感激です。いつもくらくと望遠鏡を握って、星を次々とつかまえては我々素人に見せてくださる運営委員の皆様、ありがとうございました。

総会のこと

福岡昭彦

去る5月25日、昭和61年度熊本県民天文台定期総会が行なわれました。新村史明氏の司会により、宮本幸男台長の挨拶、来賓祝辞と進み議長に渡辺和宣氏が選ばれ議事に入りました。議事の内容は次の通りです。

★ 昭和60年度業務報告(長谷勇治氏) /とにかくハレー関連の事が多かったようです。来られ

なかつた方は去年の星屑を読み直してください。

★ 昭和60年度会計報告(永井剛氏)／同封の別紙を見てください。それにしても永井先生にはいつも頭が下がります。

★ 昭和60年度会計監査報告(立川則之氏)

★ 役員改選／推選によって台長に宮本幸男氏が選任され、宮本台長により他の役員が委嘱されました。新役員は次の通りです。

◦名誉台長 宮部末雄(城南町町長)

◦台長 宮本幸男

◦副台長 小林寿郎 永井剛

◦常任理事 小林昌樹 鮎島敬昭 長谷勇治 芳野浩之 渡辺和宣

◦理事 安達知子 荒井賢三 新村史明 立川正之 中川裕

永原博英 元島威 山本重信 山本達 渡辺知史

◦監査 立川則之 西村幸男 敬称略、五十音順

★ 新台長挨拶(宮本幸男台長)／来年度はそろそろ引退したいと言っておられたが。

★ 昭和61年度事業計画(芳野浩之氏)／毎月恒例の「星を楽しむ会」やその他の観測会など、くわしくは別紙を見てください。

その他に宮本台長からGS-1の事、鮎島氏から「ハレー彗星記念誌」の事、など話が有りました。GS-1については次の星屑に宮本台長より記事を書いてもらう予定です。「ハレー彗星記念誌」は、小林寿郎氏のすばらしいスケッチを中心に会員の写真など、天文台でのハレー観測の記録です。

★ 昭和61年度予算案の検討(永井剛氏)／運営委員会で検討された予算案原案について永井先生より説明があり承認されました。具体的には別紙を見るべし。

以上で議事が終了し閉会となりました。そして10分程の休憩のあと今回の目玉、ハレー彗星観測報告会になり次のような事について発表がありました。

★ 波照間島(福岡昭彦)／貧乏な熊大生は、TVの取材を受けるというので、よろこんで日本最南端の地まで行ってきました(晴れないのに)。その番組のVTRを見てもらおう。

★ サイパン(小林寿郎氏)／サイパンの話とすばらしいスケッチの一部をスライドで見せてもらいました。スケッチの解説は興味深かったです。

★ オーストラリア・オレンジ(宮本幸男氏)／スライドによるオーストラリア紀行記。台長さんの話はいつ聞いてもおもしろい。

★ オーストラリア・バース（北島敬昭氏）／外國の話を聞くと、日本のどこが経済大国・先進国なのだろうかと思う。生活の余裕というものが、根本から違うようだ。

これでこの日の予定がすべて終わった。いつものことだが、総会そのものよりプラスの部分（ハレー報告会）のほうがおもしろい。そして、これだけでも総会に参加する価値は十分あると思う。来年度の総会はどんなプラスがあるのだろうか。たのしみである。

天文台日誌より

5/20 火星のスケッチに燃えている今日このごろ、実験のレポートに苦しんでいる最近、疲れ切った体にむち打ってやってきたのに無残にもくも。それはないぜ！（芳野）

6/14 13人が集まって草刈りを行う。うーん、ここはこんなに広かったのか....ちなみに不参加者は1000円を払いましょう。（渡辺T）

編集後記

表紙の写真は東京在住の宇野氏が撮られたものです。氏は「仕事が休みの日は必ず、富士山とか、千葉方面でハレー彗星の観望をやっています」ということでした。その宇野氏より、「熊本を離れている会員にとっては、会報が唯一の楽しみなので、もう少し、天文台の観測報告とか、いろんな会員のみなさんの声を載せて欲しいと思います」との御意見をいただきました。他の会員の方も、星屑に関する御意見、御要望、苦情などは下記事務局まで、参考にさせてもらいます。その他、記事、表紙（タイトル）デザイン、イラスト、星屑の編集者なども年中募集中です。よろしく！

P. S. 小林寿郎氏のスケッチが6月19日に100枚に達しました。おめでとうございます。

（福岡昭彦）

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1986年6月号 通巻139号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古町3番2号 熊本博物館内

TEL 096-324-3500

編集担当 福岡昭彦